



# つばさ

多摩市立聖ヶ丘小学校  
特別支援教室 つばさ  
令和6年 3月 15日  
つばさだより 第14号

## いろんな愛を受け取って、誰かに返すだろう

3月に入りました。学年末が近づいてきました。学校では、昨年4月からの子供たちの成長を振り返る時期となります。この時期になると子供の時間感覚(ジャンの法則・大人の経験認知に比べ、子供の経験認知には差があるために時間感覚が違う)の話の思い出します。この1年間という時間は子供たちにとって、果てしなく長いものであったのだろう。その中で何を見てきたのか、どう学んできたのか。ただ、これはかつて子供で経験を積んできた大人だから考えられる視点でもあります。まだまだ子供たちは先の見えない旅の途中にいるのだと思います。そう思うと、日々の生活や学校で何か困っているとき、そこで一番困っているのは子供本人です。でも、時に周囲の大人はすぐに悩みを解決したくなって、そのことを忘れてしまうこともあります。なので、大人ができることは何か、大人も迷いながら探してたくさん手を差し伸べようと悩んでいきます。何が正解なのかは厳密にはわかりません。ただ、その子の「プラス」になるように日々を共に過ごしていく、それが「学校」や「家庭」でもあるかなと考えます。

そして、子供は全力で「今」を生きているので、大人の心配や悩みはわかりません。でも、過ぎてみると少しだけ分かることもあるようです。今年も6年生が卒業を迎えます。いろいろあった小学校生活自分史について改めて聞くと、「担任の先生に申し訳なかった」「あの時は何であんなに荒れていたんだろうね…今は違うけど。」「俺は変わってラッキーだった。」という声も聞こえてきます。もちろん、前向きな気持ちだけではありません。ただ、振り返ってみた時に自分の成長を少しでも感じる事ができた。肯定的に捉える事ができたということに大きな意味を感じます。

「あの日のことは忘れてね 幼すぎて見えなかった…ぼくらはまだ、先の長い旅の途中で、誰かを愛したり、わすれたり、いろいろあるけど、…いつのまにかこの日さえも懐かしんで、全てを笑うだろう 全てを愛すだろう」(『旅路』/藤井風より一部抜粋)… 過ぎてきた子供の視点からの歌詞ですが、子供たちがこんな気持ちになっていくことを応援していきたいと思います。卒業生・保護者のみなさん、新しい旅路が続きます。ここまでの成長と頑張り胸に慌てず、ゆっくり歩いていってください。在校生・保護者のみなさん。まだまだ低学年から高学年の在校生の子供たちにとっては悩み多き、迷いの路でもあります。また4月から「まだ先の見えない旅路」をみんなで一緒に歩いていきましょう。

## 春休み・新学期に向けて

新年度はいろいろな変化があります。子供にとっても大人にとっても何かとせわしなく、緊張する場面もあるかもしれません。変化をどう捉えていくかは個々の差もありますね。新学期を迎えるにあたり、何か不安や心配な点があるときは「つばさ教室」までご相談ください。

新学期の支援教室指導開始は4月15日(月)からを予定しています。指導曜日等は確定した後にお手紙等でお知らせします。